第二十五号　平成十七年八月二十二日（月）発行

ふるさとを詠む

今年創設したふるさと賞の表彰式が、5月の総会の場で行われました。これは、「学区の愛・夢・緑を詠おう」を合言葉に、六ッ美西部小学校区の歴史的・文化的魅力を俳句・短歌で表そうという試みです。昨年度十二月から二月にかけて公募し、二六〇人（俳句二二六句、短歌九六首）の応募がありました。

岡崎出身で東京在住の現代短歌協会会員・甲村秀雄さん、ふるさと賞企画委員で日本歌人クラブ会員小島資行さん（赤渋町）が審査し、最優秀賞六点、優秀賞二四点を選びました。

表彰式では、永田会長が「初めての募集ということで、手探りの状態でしたが、優秀な作品が数多く寄せられました。次回にもぜひ応募を」とあいさつ。審査に当たった甲村さんは「技術的なことより、自分の言葉で表現できるのが大切なこと。受賞作にはキラッと光る何かがあります。よい作品が多く、感動を受けました」と講評。小島さんは「これからも心の町おこしにご協力を」と呼びかけました。

応募作を集めた作品集からは、学区の自然や自分の住む町を思う人々の心が伝わってきます。第一回ふるさと賞、みなさんのふるさとを見つめる目のやさしさを感じることができました。

最優秀賞作品

（俳句の部）

故郷へ　子供の頃に　逢いに行く　石河英子

あついなつ　だいずうえたよ　あせかいて　大河原安純

白い息　ほほに伝わる　冬の風　金原アンシェリーナ

（短歌の部）

もらい湯の　ゆげ立ち昇る　窓越しに　ホタル呼ぶ子の　声聞こえけり　柵木　誠

めがでたよ　夏にうえたシクラメン　まだまだ育つ　そらのはてまで　大河原唯人

早朝の　山美しき　六ッ美野の　舞台の上に　日がまたのぼる　髙山結可